

YWVOB 会 会報 No.55

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

<http://ywvob.com/>

2013年12月23日発行

～ 55号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶	1	・第38回 OB 山行（日光白根山）報告	13
・2014年度 OB 総会	2	・編集委員会から	14
総会報告、役員一覧、決算報告、予算		・第39回 OB 山行（竜ヶ岳）案内	15
・2013年 HCD YWV 企画展報告	6	・苗名小屋便り	16
・OB 会員近況報告	7	・シニア OB の集い報告	18
・2013年第4回役員会報告	11	・現役部員の活動報告	22
・2014年度 OB 山行予定	12		



YWVOB会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男（9期）

今年のOB総会は10月26日、台風27号が接近する荒れた天候にも拘わらず、第8回YNU-HCDに合せて開催しました。OB総会の内容が大分変化してきていることに参加された方々は気づいたことでしょう。参加人数の増加、若い世代OBの参加、ITを駆使していること、時間超過なく忌憚ない意見が多くなった、などでしょうか。今回の大きな特徴は、向かいの会場でHCD『ワンダーフォーゲル部企画展』が同時開催されたことです。55周年を迎えた伝統を誇示し、現役も積極的に準備し、OB総会に参加してくれたことです。ただワンゲル関係者以外の方々が会場を訪れたのは20名にも満たなかったのが反省点です。

OB山行にご夫婦が参加し、新たな参加者が増えている、苗名小屋を楽しむ形態の多様化、会報のカラー版発行、メルマガの拡充、等々深化していると皆様もお気づきでしょう。若い世代が徐々に主役に躍り出ています。ご期待下さい。



■ 2014年度 OB総会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

総務副委員長 白木政隆 (21期)

【日時・場所】2013年10月26日（土）9:00～11:00 常盤台キャンパス理工学部講義棟A108号室
(HCDのYWV企画展 10:00～14:00、HCD交流会 14:00～ 第二食堂にて)

【出席】

OB38名：

(1)嘉納、(2)米屋、吉野、(3)吉村、(4)郡司、(7)松本、(8)佐木、早坂、(9)上原、鈴木、三浦、(10)山本、(11)安藤、(12)榎本、山川、(14)狩野、(15)小泉、(17)梅野、小浜、白須、(18)植草、向井、山口、(19)小松、笛木、(20)石垣、西田、武藤、安武、(21)白木、村石、(22)山崎、(23)木村、(28)和多、(29)松本、(30)笛倉、(34)小野、親跡

現役6名：

(54)花井、軍司、谷口、(56)古矢、中山、(57)百合野 (計44名の多数参加)

【議事内容】

1. 定足数確認 (武藤総務副委員長)

- ・期の総数53期、定足数27期（過半数）、出席期21期（37名）+委任状16期の計37期で定足数充足。
- ・議長：西田（20）、書記：白木（21）

2. 開会の挨拶と活動総括（鈴木会長）

- ・台風の中にも拘わらず、多数の参加をいただき感謝します。
- ・山行含めてOB会活動への参加者数は増加し、世代層も広がりつつある。今後も工夫して参加者数を増やしてゆきたい。また、60周年記念事業を視野に入れ、企画機能を高めながらHCDでのワンケル企画展の実施など新たなアイデアに取り組んでゆきたい。

3. 2013年度年間総括、2014年度活動計画（各委員会）

- ・ホームページ委員会（吉村委員長）：2013年度のアクセス数32,387回（89回/日）で昨年比3割増加しHPを楽しんでもらった。今年も更なる深化と世代交代化を図る。

- ・OB山行委員会（山口委員長）：2013年度は3名が初参加。1/19筑波山（23名）、5/18丹沢山（21名）、10/19日光白根山（26名）が参加した。20名台で安定してきた。

今年度は第39回1/18竜ヶ岳（1485m）、第40回記念山行5/17蓼科山（2350m）、第41回10/19宝剣岳（2931m）・木曽駒ヶ岳（2956m）の計画。なお、緊急時の医療対応など安全対策を検討する。

- ・OB小屋委員会（榎本委員長）：5月小屋開き・山菜採り、お盆小屋整備（7月、8月）、また8期同期会（10月）など新しい動きがある。現役参加も活発化（年末雪下ろし9名、年始4名参加など）している。今年も小屋利用の拡大を検討、実施してゆく。

- ・編集委員会（石垣委員長）：2013年度も3回発行。54号からコストダウンしながらカラー版に。今後ともコミュニケーションツールとして工夫を重ねてゆきたい。

- ・総務委員会（武藤副委員長）：メルマガを毎月担当輪番で発行継続。名簿管理係が交代。現役との夏合宿壮行会などを実施。なお、名簿管理、OB会のコミュニケーションツールとして、ダイアゴナルKITの活用を検討中。セキュリティレベルは高いが、「導入については慎重に検討を重ねてゆくべき」との意見が出た。そのような考え方に基づき、役員会で具体的な活用方法を検討してゆく。

- ・部史編纂委員会（嘉納委員長）：部室にある史料のDB化を進め、現役時代の山行情報、名簿情報など検索できる歴史館を開設した。アクセス希望者は嘉納氏に連絡し、登録・セキュリティ設定して活用ができる。

- ・役員会（西田幹事長）：2013年度も4回の役員会を開催し各種議事を審議、討議。

4. 2013年度決算報告、2014年度予算提案（吉野会計幹事）および監査報告（山崎監査役）：

- ・2013年度の一般会計は収入673千円に対し支出635千円で38千円のプラス。小屋予算は収入、支出とも211千円でほぼ収支均衡。特別準備金は収支実績なし。

- ・2014年度は、収入が会費減少により612千円になるのに対し、支出が現役支援などの予備費織込みで

685千円になるので73千円の出超の見込み。

・山崎監査役から、会計監査、業務監査の結果、特段の問題はない旨の監査報告があった。

・決算、予算とも満場一致で承認された。4~5ページ参照。

5. 役員改選、新役員選出および新会員報告

・退 任: (部史編纂委員長) 嘉納(1)、(OB小屋委員) 鈴木(14)、(部史編纂委員) 金田(3)、谷上(4)

・特別決議: 再任: (OB小屋委員長) 榎本(12)、(ホームページ委員長) 吉村(3)、(同副委員長) 鈴木(9)、
(監査役) 山崎(22)

新任: (部史編纂委員長) 白木(21)

・決 議: 再任: (総務委員) 成島(22)、(OB小屋委員) 松本(29)、(ホームページ委員) 石垣(20)、
(部史編纂委員) 菅谷(6)、山下(17)、笛木(19)、石垣(20)、横溝(21)

新任: (総務委員) 伊藤(23)、木村(23)、(OB小屋委員) 谷口(54)、(部史編纂委員) 嘉納(1)

・新会員報告: (54期) 軍司、谷口、花井、斎藤、(24期) 木村 (9/28役員会で承認、本総会で報告)

・上記の役員改選、新役員選出は、満場一致で承認された。

6. 終身会費制度導入について

・毎年75歳になる毎に希望すれば、終身会費(3千円)を支払うことで以降の会費納入を無しにすることができる仕組みを役員会から提案したが、趣旨の明確化、金額の妥当性について複数ご意見が出たので、今総会での採択を見送り、役員会で再度検討した上で再度総会に上程することとなった。

7. 現役活動報告

・部員数は19名(1年4名、2年8名、4年7名)。女子はゼロ。

・春合宿(2月・伊豆大島)、新人歓迎(4月・大山、大丸山)、新錬(1次:6月雲取山、2次:6月八ヶ岳)、夏トレ(7月・乾徳山、大菩薩嶺)、夏合宿(8月・白馬岳、槍ヶ岳)、秋登山(10月・奥穂高岳)

閉会

【 役員一覧 】

■・・・2011.10.29再任□・・・2011.10.29就任
★・・・2012.10.27再任☆・・・2012.10.27就任

●・・・2013.10.26再任○・・・2013.10.26就任
()内は期、+は再任

会長	鈴木 弥栄男 (9) ■	OB小屋委員	笛木 久栄 (19) ■
幹事長	西田 雅典 (20) □		笛倉 実 (30) ■
会計幹事	吉野 大次郎 (2) ★		安本 健一 (30) ■
	松本 和之 (29) ☆		田中 義人 (34) ★
総務委員長	横溝 真司 (21) ■		親跡 冬樹 (34) ■
総務副委員長	山川 隆 (12) ☆		村山 浩樹 (34) ■
(兼)	武藤 功二 (20) ■		田村 順洋 (34) □
	白木 政隆 (21) ■		石川 真 (41) □
	白須 謙治 (17) □		谷口 貴大 (54) ○
	成島 和仁 (22) ●		編集委員長 石垣 秀敏 (20) □
	渡邊 隆史 (36) ■		編集委員 成島 和仁 (22) □
	茂呂 将典 (51) □		ホームページ委員長 吉村 元孝 (3) ●+
	伊藤 忠彦 (23) ○		ホームページ副委員長(兼) 鈴木 弥栄男 (9) ●+
OB山行委員長	木村 真行 (23) ○		ホームページ委員 (兼) 石垣 秀敏 (20) ●
OB山行副委員長	山口 貢三 (18) □		(兼) 親跡 冬樹 (34) ☆
	小浜 一好 (17) ■	部史編纂委員長	白木 政隆 (21) ○
	小野恵美子 (34) □		安武 和俊 (20) □
OB小屋委員長	榎本 吉夫 (12) ●		嘉納 秀明 (1) ○
OB小屋副委員長	後藤 誠史 (39) ■		(兼) 菅谷 光雄 (6) ●
OB小屋委員会計担当(兼)	松本 和之 (29) ●+		山下 曜 (17) ●
OB小屋委員	郡司 直樹 (4) ■		(兼) 笛木 久栄 (19) ●
	諸角 壮式 (5) ■		(兼) 石垣 秀敏 (20) ●
	菅谷 光雄 (6) ■		(兼) 武藤 功二 (20) ☆
	小口 雄平 (14) ■		(兼) 横溝 真司 (21) ●
	向井 良作 (18) ■		(兼) 塩野 貴之 (46) □
	堀内 章子 (18) □	監査役	山崎 晃 (22) ●

(予算)		(実績)
前期繰越	1,105,995	1,105,995

(収入)

費目	予算	実績	差額
年会費	100,000	118,000	18,000
前納会費	336,667	348,333	11,666
一般寄付金	50,000	53,078	3,078
小屋寄付金	100,000	117,078	17,078
総会参加費	0	0	0
山行参加費	24,000	29,550	5,550
名簿郵送関連	7,000	6,500	-500
その他収入	0	203	203
計	617,667	672,742	55,075

(前納会費 336,667 348,333)
 (延人員 202名 209名)
 (当年度納入 50名 58名)

(支出)

費目	予算	実績	差額
会報作成・発行費	350,000	312,648	-37,352
小屋会計振替	150,000	150,000	0
役員会費用	30,000	27,596	-2,404
総務委員会費用	40,000	35,158	-4,842
山行費用	30,000	25,520	-4,480
HP委員会費用	15,000	16,175	1,175
部史編纂委員会費用	20,000	19,520	-480
その他支出(予備費)	100,000	48,440	-51,560
計	735,000	635,057	-99,943
当期収支	-117,333	37,685	155,018

次期繰越 988,662 1,143,680 155,018
 (繰越前納会費 933,333 991,667)

2013年度○B小屋会計決算

会計期間

2012.10.1~2013.9.30

前期繰越金(2012.10.1)	673,024
------------------	---------

2013年度収支計算書

収入	
○B会計より振替 ・小屋寄付金	150,000
小屋宿泊料金	57,500
預金口座利子	168
その他寄付	3,514
○B小屋会計収入合計	211,182

当期収支(②-③)	465
-----------	-----

支出	
小屋地代	10,000
除雪費用	0
除雪作業補助	5,000
小屋整備修繕(DIY・他)	195,507
振込手数料	210
○B小屋会計支出合計	210,717

次期繰越金(2013.9.30)	
------------------	--

預金(①+②-③)	673,489
-----------	---------

2013年度特別準備金収支

(2012.10.1~2013.9.30)

前期繰越	5,146,046	支出	
収入			
預金利子	15	計	0
計	15	次期繰越	5,146,061

2013年度 主な支出

(2012.10.1~2013.9.30)

会計	費目	内容	金額
一般会計	総務委員会費用 会報作成費	総会・交流会補助34人 会報52号印刷費・発送費 370部 会報53号印刷費・発送費 370部 会報54号印刷費・発送費 500部 部史編纂委員会レンタルサーバ代 現役夏合宿壮行会 (ソフト) アクセス購入代	34,000 77,280 86,904 93,710 15,000 30,000 15,540
	部史編纂委費用 その他(予備費)	スノーダンプ、炬燼 テープラ、消耗品	27,498 14,699
小屋会計	小屋整備費 交際費	現役交流会補助	21,501

一般会計貸借対照表

資産	負債	2013. 9. 30
振替口座	491,507	次期繰越
通常貯金	867,840	繰越前納会費
定額貯金	1,238,000	前受金
計	2,597,347	計
		2,597,347

前受金内訳

年会費	74,000
前納会費	300,000
一般寄付	12,500
小屋寄付	27,000
共通寄付	43,500
名簿郵送料	5,000

特別準備金貸借対照表

資産	負債	2013. 9. 30
通常貯金	146,061	特別準備金
定額貯金	5,000,000	計
計	5,146,061	計
		5,146,061

2014年度一般会計予算

(2013. 10. 1~2014. 9. 30)

(13年度実績) (14年度予算)

前期繰越	1,105,995	1,143,695
------	-----------	-----------

(収入)

費目	13年度実績	14年度予算	差額
年会費	118,000	110,000	-8,000
前納会費	348,333	321,667	-26,666
一般寄付金	53,078	50,000	-3,078
小屋寄付金	117,078	100,000	-17,078
総会参加費	0	0	0
山行参加費	29,550	24,000	-5,550
名簿郵送関連	6,500	6,000	-500
その他収入	203	0	-203
計	672,742	611,667	-61,075

(支出)

費目	13年度実績	14年度予算	差額
会報作成・発行費	312,648	300,000	-12,648
小屋会計振替	150,000	150,000	0
役員会費用	27,596	30,000	2,404
総務委員会費用	35,158	40,000	4,842
山行費用	25,520	30,000	4,480
HP委員会費用	16,175	15,000	-1,175
部史編纂委員会費用	19,520	20,000	480
その他支出(予備費)	48,440	100,000	51,560
計	635,057	685,000	49,943
当期収支	37,685	-73,333	-111,018

(前納会費)

348,333 321,667)

(延人員

209名 193名)

(当年度納入

58名 30名)

次期繰越

1,143,680 1,070,362

(繰越前納会費

991,667 979,000)

2014年度O B 小屋会計予算

会計期間

2013. 10. 1~2014. 9. 30

前期繰越金(2013. 10. 1)	673,489
--------------------	---------

2014年度収支計算書

収入

OB会計より振替 ・小屋寄付金	150,000
小屋宿泊料金	40,000
預金口座利子	0
OB小屋会計収入合計	190,000

支出

小屋地代	10,000
除雪費用	0
除雪作業補助	40,000
小屋整備修繕(DIY・他)	140,000
振込手数料	1,000
OB小屋会計支出合計	191,000

当期収支

-1,000

次期繰越金(2014. 9. 30)

672,489

2013年 HCD YWV企画展報告

幹事長 西田雅典 (20期)



ホームカミングデー (HCD)・YWV企画展

～創部55周年のワンゲルの伝統～（ご報告）

横浜国大の第8回ホームカミングデー (HCD) のイベントとしてワンゲル企画展を実施した。今年のHCDのテーマである「YNUの学風、伝統を見つめる」に沿つたもので、鈴木会長がHCD実行委員長に選任される中で、YWVのこれまでの活動や歴史をスライド、写真、山道具、文献などで展示することになった。

2013年4月以降の役員会の場で展示の内容や方法につき検討を重ね、8月31日に現地（理工学部講義棟）で詳細打ち合わせを行った結果、最終的には下記の展示内容で現役ともコワークして実施することになった。結果としてワンゲル以外の見学者はそれほど多くはなかったが、ワンゲルに対する理解が深まったと考える。

◇展示日時： 2013年10月26日 10:00～14:00

◇場 所： 理工学部講義棟 A106号室

◇展示内容：

(山道具) テント、ザック、ホエブス、寝袋、ポリタン、ランタン、歌集、天気図

(ポスター) マスコット山ガールロゴを添付したパンフレットを配布用に作成し、HCD実行委員会から配布。また、案内板に貼付した。

(写 真) 妙高周辺地図、山小屋、現役夏合宿など、OB山行、シニア山行などの写真82枚をA3版ラミネート加工

(絵 画) ワンゲル関係者が描いた、山、静物等をモチーフにした6枚の額縁絵画と額縁写真

(歴史関係) 55年間の年表、部員推移、代々のOB会報、スカイライン、50周年記念誌など展示

(スライド) 2箇所でOB会活動、現役活動、山小屋などスライドショー



(上) YWV企画展 入口



(右) 交流会でのエール風景

YWV OB・現役が主体となり、

参加者の多くが円陣を組む！

エール指導は20期 安武さん

■ OB 会員近況報告

総務委員 木村真行 (23期)

期	姓名	近況
1	田上 栄一	元気にしております。たまに、六甲山系を歩いています。
2	藤林 徹	元気にやっております。
2	北見 美智子	住んでいる横浜市の様子(今)を知りたくて、暑い中日傘をさして、地図とペットボトルを持って探検しています。今日で22回になりました。まだ続きます。
3	井上 肇	地元町内会の会長を引き続き引き受けています。
3	平林 茂	73才。なんとか元気ですが、7年後のオリンピック見たいとも思いません。もっと本気でやることがあると思うけど、なんという浮かれようか…。安倍政権の恐ろしさ 判らないのですかね。
5	谷合 成人	現役での仕事を辞めほぼ10年です。今は週2回程度のアルバイトで東京・横浜方面へ出掛けています。趣味のテニスでは地域の中高年の方とプレーを楽しんでいます。ボケ防止で始めた中国語の勉強も何とか続けてはいますといったところです。
5	高垣 昌夫	お陰様で健全に過ごしております。
5	三宅 雅也	大阪府の高齢者大学に入学して「美の世界」を勉強しています。
6	菅谷 光雄	今年もまたOB会・同期共全活動に参加できそうにありません。今年8-9月はまたしても入院生活となりました。入院中は、懐かしい友の顔を思い出しては、懐かしむ日々ばかり。しかし今でもいつの日か、ささやかでもよいから活動に参加する夢を捨てていません。皆様も健康第一で御活躍を祈念しております。
6	江角 喜一	平成25年9月2日午後2時、安全都市我が越谷市に、なんと「竜巻」が直撃しました。小生宅は最小限の被害で助かりましたが、テレビで一躍有名になりました。
7	坪 亜起子	両親が亡くなつて一人暮らしになりました。自由でのびのびできると思いましたが、一人であれもこれもするのは大変です。こちらも年をとりましたし、今のところ元気なのが何よりです。
7	北村 熱	事務局の皆様、ご苦労様でございます。OB会報、インターネットの報告等を毎回楽しみにしています。
7	鈴木 博子	つい先程まで山行に同行した友の、急な死に直面し動搖しています。暑さとともに厳しい夏でした。
7	松本 弘道	登山も最近は軽い山になりましたが続けています。
8	綾部 和子	6月中旬の11日間、念願だったスイスに行ってきました。マッターホルンのモルゲンロート、高山植物の咲きほこる中のハイキングに感動。ゴルナグラードからの展望、ユングフラウヨッホからの展望は圧倒されました。雨の日は山歩きを止め、街歩きや美術館などを楽しんで来ました。
8	武藤 直子	今年は、長年待ち望んでいた長女に長男が誕生。10月には次男が結婚と、ようやく肩の荷が下りました。出産の手伝いでSanDiegoに行ったり、夏の暑さに当たれたりで、少し体調を崩し、9月上旬に一週間入院しました。皆様、お体ご自愛ください。
9	日渡 松男	嘱託定年退職後、「日本100名山」登頂を同期で二番目に達成。現在は「奥の細道」を自転車でほぼ忠実に訪ねて、3年目になった。2013年8月に漸く酒田に達したので、これから北陸道を下る。来年中には大垣にゴールしたい。それ以外は、週一度近くのコミュニティーセンターでボケ防止の為、コントラクトプリッジを楽しんでいる。上原氏の八ヶ岳の山荘に年一度9期有志が集まります。鈴木会長には、バックアップ出来ず申し訳なく思っています。

9	鈴木 弥栄男	2013年8月現在：68歳、YWVOB会会長（2期目で約5年経過）・YWVOB会HP委員会副委員長・シニアOB会特別会員。近況：①ISO9001&ISO14001主任審査員として年に30回以上審査をしている。②NPO-IOJに所属し、理事としてボランティア活動をしている。③YWVOB会等のOB会活動をしている。・・・と、三本柱でもって前期高齢者の生活をエンジョイしています。
9	梶野 美智子	OB会報・OB会含め、いつも御世話になっております。ありがとうございます。HCD（10/26）に出席する予定おりましたが、義兄の13回忌のため失礼します。すみません。皆様のご健康をお祈り申し上げます。
10	山本 陽一	昨年2月に無職になって以来、引き続き悠々自適ならぬ汲々他律の生活を送っています。働いていた時に比べれば格段に自由時間は多いはずですが、日本技術士会の千葉県支部を始めとするいろいろな行事、喜友会世話人活動などで山に行く時間がなかなか取れません。 それでも昨年9月には北海道日高山脈の最高峰の幌尻岳（ぼろしりだけ、2053m）を一週間かけて登頂しました。5日間他の登山者にも熊にも出会わない静かな山行でした。逆にランニングの練習時間をまとめて取ることができ、その効果が今年のマラソンに現れました。1月に館山、3月に佐倉で28年ぶりに4時間切ることができたのです。次の目標は28年前の自己最高記録の突破です。
10	村田 尚雄	福岡で元気に暮らしております。福岡在住のOBが居れば連絡先を教えてください。
11	桜井 謙一	まだ、現役でいます。なかなか仕事から離れられません。なお、勤務先は公益法人が合併し名称変更したもので、実態上勤務先は同一です。ここ20年来スキーは行ってますが、山に行くのはご無沙汰しております、体力的にもきつくなっています。
11	榎原 福司	退職後、2年程前から、会社（富士フィルム）や、大学の出身学科とは全く関係ない農業系のNPO法人に、週3日程度支援に入っています。（農商工連携サポートセンター）農業体験ツアー、被災地復興支援、産直市開催、6次化の普及などを推進する団体。被災地支援として、月一程度ツアーを組んで現地に行っています。（ビニールハウス設置、苗の定植、収穫など）
11	中林 康明	今年の3月末で退職しました。
14	鈴木 道夫	健康に恵まれ引き続き会社勤めをしています。家の両親を九州から上越市の介護施設に引き取り、両親と家内を助けています。一方で自身の母親は川崎の施設におり、子供のいない埼玉の叔母の世話もしています。山には山菜取りに行くくらいですね。「朝出かけワラビゼンマイ摘み帰り 施設の親呼びタベ味わう」今春詠んだ歌の通りです。
14	鵜飼 紀夫	悠々自適。
15	岩船 芳人	退職後1年ほどフリーで、この4月より再就職しました。またサラリーマンに戻りましたが、以前とはまた違うモチベーションで働いています。今しばらくは続けた後完全フリーに戻る計画です。
15	安藤 壽子	横浜市教員OB・現役の山の会（山酔会）に入会し、年数回の山行に参加しています。今年の夏は御嶽・乗鞍岳の2泊3日を楽しみました。雲海に3000メートル峰の頂が浮かぶ360度の眺めに心から感動しました。15期の仲間との交流も広がるといいなあと思います。
15	西浦 章予	無事にやっと退職することができました。現在、再任用で2日半、初任者指導にあたっています。そろそろ山に登りたいと思っています。
15	小泉 啓治	いつもご連絡ありがとうございます、この3月で小学校の教員生活にピリオドを打ちました、現在は、町内会やお寺の活動の手伝いをボチボチしています。今までより少し時間が自由になりますので、山へ行けるかなと楽しみにしています。
16	植松 弘	定年退職を機に、朝の30分程度のウォーキング、月2回クリアの低山ハイキング（高尾山など）を始めました。

16	清水 恵子	OB会報、山小屋整備等、ありがとうございます。会報、楽しみに読ませていただいております。
17	木村 善行	この12月末で定年を迎えます。さてその先どうするか。会社に残るか、きっぱりやめて自由を手にするか、ただいま思案中です。
17	長谷川 三津子	2年前に鶴川に引っ越したせいで宛て先不明になり、事務局の方にはご迷惑をお掛けしました。何年か前の、周年記念で山小屋と妙高登山に行ったきり、すっかりご無沙汰しています。長年の図書館勤めが祟ったのか、ここ数年脊柱管狭窄症に悩まされています。今春に孫が生まれたのを機に、なんとかせねばと思うようになりました。やっぱりもう一度山に行きたいのです！あと1年半で退職なので、また皆様にお会いできることを夢見ています。その時はどうぞよろしく。
18	伊達 誠一	人工股関節等の製造販売を行う会社で、品質保証関係の仕事をしています。業績が伸びない中、四苦八苦しています。
18	山口 貢三	山行委員長ということで、OB山行前には偵察山行を実施することで、支障がないことを確認しています。かつては同じ山に続けて行くことは考えられないことでしたが、1か月経っただけでこんなに違う山の変化を今では再評価しています。偵察山行といつても結構大勢でいくので楽しいですよ。
18	浜田 淳	だいたい岡山市にいまして、医学部学生などの教育や医療・介護政策の研究をしています。少し涼しくなったら近場の山に行ってみようかと考えています。
18	勝山 謙太郎	元気でやっています。
19	南 靖英	近況：近くの山でも散策にと思っておりますが、なかなか腰が上がりません。こんな年でまだ海外を飛び回っております。サラリーマンを卒業したら奈良の低い山で歩きます。
19	小松 真弓	久しぶりに国大を訪れ、総会に参加する予定です。藤沢にも国大出身の教員の集まりである「友松会」がありますが、残念ながらYWVのOB・OGはいないようです。
19	磯尾 典男	現在も単身赴任中（福山営業所）。家族のみ、来年4月に赤穂から川崎に引っ越す予定。
20	玉木 慎二	特に大過なく肃々と生活しています。
20	岡本 健	最近は、もっぱら自宅周辺の丘歩きです。それでも天気の日には見晴らしも、風通しもよく気分爽快です。
23	武藤 秀二	20期武藤様 21期横溝様 お疲れ様です。何とか生活をしております。8/7に信州上高地家族旅行から戻りました。快晴で、西穂～奥穂～前穂がピカピカでした。前日まで大雨だったので、午後になっても雲が形成されず、中央高速からは、八ヶ岳全景、南アルプス北部（北岳も）、奥秩父（五丈岩）までも、本当にきれいでした。そういえば、あれが北岳だと教えてくれたのは、新鍊2次合宿での故中川先輩でした。中央線からの景色で、あの感動以上のものを、実は今だに味わっています。それほど強烈に美しい景色でした。
23	森嶋 千唐	総会出席できませんが、ご容赦ください。いつも会報お送りいただき感謝しております。ありがとうございます。
24	木村 和子	子育てのために一旦教員を退職しましたが、6年前から横須賀の小学校で臨任をしています。
27	中田 英樹	H24/4月から、山口県防府市で単身赴任中。早朝のランニングと夜の宴会との両立が課題です。
27	遠藤 幹	年に2回ほどしか山には登っていません。今年登った山は、里平山（リビラヤマ）という日高山脈前衛の1200メートル位の山ですが、天気が今一つで眺望はありませんでした。但し天然椎茸がたくさん取れて美味でしたが。私自身のことを言えば、高1の娘、小5の娘、3歳の息子がおり、まだまだ仕事を頑張らねばなりません。アベノミクスのおかげか、馬主様の購買意欲が今年は大変旺盛なので、そのおこぼ

		れが馬産地と私に降り注いでくれるのを期待しております。
27	遠藤 勝哉	現在、勤務地が関西（大阪）のため、残念ながら、OB会は欠席となります。長い間、山には登っておりませんが、毎回メール便で送られてくるOB会報は楽しく拝見させて頂いております。
28	梅田 祥司	今年は、世界遺産に登録された富士山に初めて登りました。その後、八ヶ岳の赤岳に昨年に引き続き登りに行きました。小学生の息子が山に興味を示しているので、二人で登るのが楽しみです。
28	和多 治	送信していただいたメアドなどを基に、極力連絡してみます。数年前に、パソコンと携帯のデータをなくした事、住所も変わり同期とはまったく音信不通の状態になってしまいます。ただ数名はメアドで繋がるでしょうから、それをつてにやってみます。
28	楠本 なぎさ	先日のHCD、大変懐かしく、そして楽しく参加させて頂きました。どうもありがとうございました。
29	禪 知明	いわゆる山行からは相当遠ざかっています。
30	福田 幸治	中国に赴任してはや1年が過ぎました。尖閣問題、鳥インフルの社会問題から、身近では日本では起こりえない問題に日々直面し、人間的に少しくましくなった気がします。日本の文化、人の意識、考え方、製品の品質が一流であることを改めて実感する毎日です。
35	土方 康裕	今年は、大菩薩峠に会社レクで250名で登りました。

OB会員近況報告

時田澄男（5期）

富士山が世界文化遺産に登録されたのを契機として、登山者が急増しているそうです。富士山に最後に登つてから、もう5年くらいも経ってしまったように思います。富士宮口から登り、8合目付近からはいつもの例で高山病的な症状となり、ペースが落ちました。お子さん連れのグループと一緒にになり、お子さんを褒めながら、同じペースで歩き、なんとか、剣ヶ峰頂上に到達しました。帰路もスピードはあがらず、転んで危うく尾てい骨を傷めるところでした。幸いにして損傷はなく、何とか下山しましたが、60歳もとっくに過ぎ、もう私には富士山は無理と思った方が良いと自覚しました。

YWVOB会メルマガ Vol.49 2013年5月号でもご紹介させていただきましたが、現在は、原子や分子の中のミクロな世界を、ガラスブロックの中に拡大して表示するという仕事をしています。詳細は下記ホームページにあります。

http://winmostar.com/nebula/index_cover.html

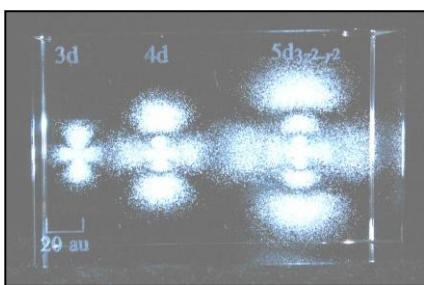


図1. 3d($3z^2-r^2$), 4d($3z^2-r^2$), 5d($3z^2-r^2$) 軌道

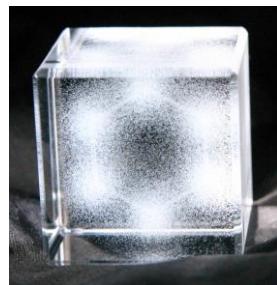


図2. ベンゼンのπ電子雲

昨年（2012年）は、上野の国立科学博物館で「元素展」という特別展があり、展示や頒布を行う機会を得ました。一番人気は水素原子のd軌道のひとつである図1の3d($3z^2-r^2$)軌道でした。次に頒布実績が多いのは、ベンゼンの二重の電子雲を示した図2です。これらの模型は、3次元の画像を実際に3次元で表すという、他に例を見ない手法であるため、写真ではその良さは残念ながら判りませんが、これらが今まで見たことも無い「綺麗な」立体像であることは、御覧になった方々が、誰しも認めるところです。単に自然を拡大したものがこんなに綺麗だったということは、山上の自然の風景にも一脈通じるところがあり、創造の苦労が報われる想いで満足感が一杯といったところです。しかし、定年後に始めたこの仕事も、もう7年目になり、注文は徐々に増えていますが赤字続きです。極めてマニアックな仕事なので赤字は頓着していませんが、結構体力、知力を消耗するし、購入した彫刻機もだんだんと寿命に近付いて来てしましました。富士登山を諦めたように、このオリジナリティに富む仕事も、そろそろ、退け時なのかも知れません。

■ 2013年 第4回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2013-9-28 (土) 13:30 からミユーナ川崎市にて第4回役員会が開催された。

【出席】嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、小浜(17)、白須(17)、山口(18)、安武(20)、武藤(20)、石垣(20)、西田(20)、白木(21)、山崎(22)、親跡(34)、小野(34)、<現役>中山(56) 以上16人

【内容】

1. 各委員会報告

①総務 (武藤)

- ・総会出席者の回答状況報告。総会当日はアンケート配布する。
- ・終身会費制度導入につき、2014年4月からの適用 (1期=学齢75歳で開始) で毎年75歳になる期毎に、希望すれば終身会費(3千円)を納めることで、以降の会費納入を無しにすることができる案で総会に上程する。
- ・内諾を得ていた新役員として木村さん(総務)了承済み。他の新役員については西田、横溝で最終確認する。
- ・24期木村和子さんを新会員として承認した。来月のOB総会で報告する。

②OB小屋: 特になし。

③編集 (石垣)

- ・次回55号は20ページの予定で12月中旬に発行予定。

④OB山行 (山口)

- ・次回山行は10/19日光白根。2014年度山行(案)は1/18竜ヶ岳、5/17~18蓼科・霧ヶ峰、10/19宝剣・木曽駒としたい。

⑤ホームページ (吉村): 特になし。

⑥部史編纂 (嘉納)

- ・委員長交代し、委員として活動したい(委員長後任は白木さんを推薦)。

⑦会計 (吉野)

- ・2013年度決算(一般会計収支+38千円、小屋会計収支+465円、特別準備金収支ゼロ)。
- ・2014年度予算案(一般会計収支△73千円、小屋会計収支△1千円、特別準備金収支ゼロ)。

⑧現役からの報告 (56期 中山)

- ・11/2~3で大学祭の予定。

2. OB総会

- ・10/26(土)9:00~11:00(予定)、場所は理工学部講義棟A108、現時点出席予定36人。
- ・交流会は14:00から第二食堂にて行う。
- ・議事としては、会長挨拶後、各委員会活動実績報告・計画の説明(各約10分)、会計報告・予算審議、監査報告、役員改選・新会員報告および承認、現役活動報告、終身会費制度導入の件(会則変更)

3. HCDでのワンゲル企画展実施(創部55周年ワンゲルの伝統紹介)

- ・場所は理工学部講義棟A106で9:00~14:00の間に展示する。
- ・現役とも協力して、山小屋、山行、ワンゲルのスライド、テント等山道具などの展示を実施する。
- ・10/25(金)16:10に集まり、事前準備を行う。

4. 次回役員会予定: 2014年1月11日(土)14:00~

場所: てくのかわさき (溝の口)

以上

2014年度OB山行の予定

OB 山行委員長 山口貢三 (18期)

2013年度のOB山行は、32名の会員が参加しました。また3名の初参加がありました。まずは勇気を出して申し込んでください。出会った瞬間に打解けているところがYWVOB会のいいところです。また会員の家族、友人も歓迎しています。

会員の親睦を図ることを目的に今年も3回の山行を計画しました。詳しい案内は、会報、メルマガでもお知らせします。多くの会員の参加をお待ちしております。

◆第39回 竜ヶ岳 (1485m) 富士山本栖湖南岸

[集合場所・日時] 1月18日 (土) 本栖湖キャンプ場 10:15

[交通] バスまたはマイカー

[歩行時間] 3時間30分 標高差 580m 山行ランク 体 ☆ 技・危 ☆

◆第40回記念山行 蓼科山 (2350m)

[集合場所・日時] 5月17日 (土) すずらん峠駐車場 9:30

[交通] マイカー:横浜5:30 東京6:00発

[歩行時間] 5時間 標高差 806m 山行ランク 体 ☆☆ 技・危 ☆

[その他] 翌日オプションツアー (希望者のみ):霧ヶ峰 (18日) 体 ☆ 技・危 ☆



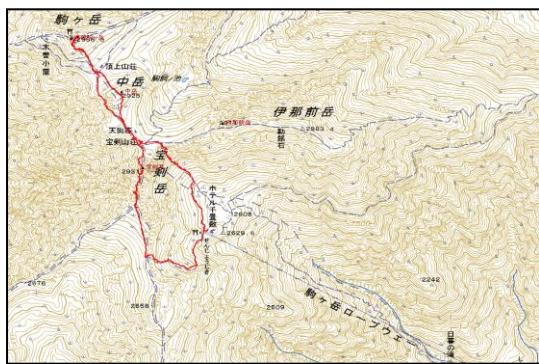
◆第41回 宝剣岳 (2931m)・木曽駒ヶ岳 (2956m)

[集合場所・日時] 10月19日 (土) しらび平 7:00

[交通] バス (新宿21時発) またはマイカー (前夜発)

[歩行時間] 4時間 標高差 310m 山行ランク 体 ☆ 技・危 ☆☆

[その他] 18日前夜発、前泊 宿泊費は3,800円程度



上記山行で都合がつかない方は、OB山行委員会による偵察山行に一般参加することもできます。偵察日はメルマガで案内を見るか、直接お問い合わせください。

(出典: 地図 ウオッちず、写真: ヤマレコ)

■ 第38回OB山行（日光白根山）報告

OB 山行委員長 山口貢三（18期）

[日 程]：平成25年10月19日（土）

[参加者]：吉野(2)、郡司(4)、佐木(8)、鈴木(9)、安藤(11)、山川、榎本(12)、小口※、鶴飼、吉田、狩野(14)、葛窪、渡邊、小浜(17)、山口、堀内、岡田、福田夫妻、植草、壺井(18)、笛木(19)、西田(20)、白木夫妻(21)、小野、親跡(34) 参加人数計27名、()内は期、※偵察山行参加、

[実 働]：丸沼高原山頂駅 10:30—七色平分岐 11:07—休憩 11:57—山頂 12:57（昼食）13:29—14:07（応急措置）14:17—14:20（応急措置）14:45—15:18（休憩）—七色平 15:45—丸沼高原山頂駅 16:17

日光白根山（にっこうしらねさん）は、栃木と群馬の境界にある標高2578mの山。日光白根山の山体は成層火山であるが、最高峰の奥白根（おくしらね）は安山岩のみから成る溶岩円頂丘である（出典：ウィキペディア）、とあり特徴のある姿はこのことから説明がつく。また呼び名は、奥白根山と日光白根山のどちらも正解の呼び名であるが、国土地理院の地図によれば正式には白根山となる。

この日光白根山をYWV歴史資料館から検索すると、現役では1970年代によく登られ、これまでに12回登っているが、いずれも日光側から険しい外輪山を越えて登っているようである。1983年を最後に現役が登った記録はない。



左) 白根山



中) ゴンドラ



右) 日光側から見える白根山（2012年6月撮影）

その後マイカー登山の普及、ゴンドラの完成（1998年）によりアクセスが便利になり急登も少ない丸沼、菅沼ルートは日帰りが可能なことから、年間を通して登山客が訪れる人気の山となっている。筆者も現役時代PWでは2泊3日で登ったように遠く険しかった山の記憶があったが、使えるものをフルに活かせば日帰りができる幸せな時代になっている。

マイカーを使って今回は新潟、長野、栃木、千葉、東京、神奈川各地から集合していただいた。車で移動中に雨となるが、ゴンドラで上がると雨雲の上に出たようで、白根山が正面に見えていた。

最初は樹林帯をしばらく巻くように進み、直登し始めるとやがて森林限界に到達する。



2500m級の山はさすがである。頂上からは日光連山、上州武尊、尾瀬の山々、浅間山、富士山も見えていた。しばらく展望を楽しみ頂上直下で昼食とする。



左) 山頂直下、右端は偶然 41 期石川乱入。 中) 男体山、中禅寺湖 右) 弥陀ヶ池

頂上から弥陀ヶ池を真下に見るよう急斜面を下る。20分ほど下った所で負傷者がいた。転倒した際、額を岩角にぶつけ出血させていた。参加者から三角巾、ガーゼ、包帯、消毒薬をいただき何とか応急措置ができた。

周囲は心配したがご本人からは大丈夫と言っていただいたので、ともかく下に降りることにした。そこから更に1時間半歩いて二荒山神社のある登山口に到着した。ここではきちんと礼拝し帰りの安全をお祈りしたのは言うまでもない。ゴンドラ営業時間終了前にはなんとか下山でき、スキー場の治療室では包帯などを替えていただき、現地スタッフの方にも大変お世話になった。その後お怪我の痛みをこらえ1週間後には大きなイベントの大役を果たされた。登山時のリスクはどんな時、どんな所にも存在する。起きない努力ももちろん大切だが、いざという時に仲間が多いほどこうした困難もそれだけ助け合うことができ、大変心強いことであった。

山行委員としては反省すべき山行であったが、その後多くの方から、それでも楽しかったとのメールを頂き仲間のありがたさを強くした山行でもあった。参加者は27名（偵察含む）と大盛況で、福田さん夫妻（新潟）、西田さんに初参加いただき、秋の山を存分に楽しんでいただけたものと思う。

今回の反省) • 頭部プロテクターとして帽子等の着用や体調管理を事前にお願いする。

• 救急品を見直し山行委員携行、参加者へ三角巾携行の呼びかけ。

■ 編集委員会から

編集委員長 石垣秀敏（20期）

OB 総会報告や多数の OB 会員の方々からの近況報告など本号に沢山の原稿を頂きましたので、編集委員会は嬉しい悲鳴を上げながら編集を行ないました。盛り沢山の原稿はいつ載せるの？「今でしょ！」と思い編集した結果、誌面が窮屈になってしましましたがご容赦下さい。来年も「お・も・て・な・し」の心で、皆様が「えええええ」と驚くような誌面を目指し、頂いた原稿の御礼は「倍返し」で、誌面向上を図ってまいります。それでは皆様、良い年をお迎え下さい。



横浜国大ホームカミングデー交流会での YWV OB・現役の皆様

■ 第39回OB山行（竜ヶ岳）案内

OB 山行委員長 山口貢三（18期）

富士山がやっと世界文化遺産になりましたね。新幹線や飛行機に乗ったときは富士山が見える側に席を探すように、日本の象徴的存在のひとつなので、文化遺産という見方も一部納得というところでしょうか。その北西に位置する竜ヶ岳に今回登ろうと計画しました。雪を頂いた冬の富士山は格別ですし、本栖湖も眼下にあり展望が楽しみな山です。

初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方の参加をお待ちしています。

〔日 程〕 2014年1月18日（土）

〔行 先〕 竜ヶ岳（りゅうがたけ・1485m）

〔地 図〕 昭文社 山と高原地図 31 富士山 御坂・愛鷹

〔集合・交通〕 往き）新宿 7:05→高速バス→9:02 富士山駅 9:20→路線バス→10:13 本栖湖バス停

横浜 6:36→JR→9:10 富士宮 9:20→路線バス→10:05 本栖湖バス停

帰り）本栖湖バス停 16:05→16:40 河口湖駅

マイカー）雪の状況によっては全員電車、バスとなります

駐車場：本栖湖バス停先の本栖湖キャンプ場登山用駐車場

〔行 程〕 本栖湖キャンプ場 10:45 → 13:20 山頂 13:50 → 15:50 登山口

（歩行時間3時間30分） 体★ 技・危★

〔参加費〕 500円

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、軽アイゼン

〔申込み〕 参加ご希望の方は1月5日までに下記のいずれかにご連絡ください。マイカーを出していただける方はその旨お申し出ください。（配車を調整して1月12日頃までに参加者へ連絡予定）

小浜一好（17期） 山口貢三（18期） 小野恵美子（34期）

メール：sanko-ywvob@yahoo-groups.jp



（出典：ウォッちず12500）

■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫 (12期)



11月の小屋閉め、冬への準備完了！

つながる小径や前庭の草刈り、トイレの除虫と清掃、プロパンガスの補充、物置の整理整頓、調理用品雑貨や流し台下の整理整頓、床下に潜って結露や黴発

8月のお盆週間、前半の10日（土）～12日（月）には8期佐木さん、9期鈴木会長、11期安藤さん、14期小口さん、19期笛木さん、29期松本さん、12期榎本、後半の14日（水）からは、30期笛倉さん、現役56期畠さんのが小屋入りしました。ワンゲル8期21人（配偶者同伴が原則）10月7～8日に苗名小屋を訪れる計画があり、小屋イメージをアップさせるべく、例年の小屋整備以上に気配りして実施した。東面のガラス戸の磨き、コンロ台前の簀子拡張、食器ケース導入と分別整理、通称床の間に置いてあったものを整理棚に移し、訪問者のザックなどの置き場確保、不用品の処分、外壁の防腐材塗り、林道に



小屋をライトアップ、幻想的でいいね！

生状況の観察と分析評価、雪下ろし用ダンプの塗装などを実施しました。そんな折、43期赤井さんが奥さんとひょっこりと10日に来られ、従前の小屋の状態の様変わりに驚かれていました。9月22日（日）～23日（月）の連休には、松本さん、笛倉さん、現役56期古矢さん（現主将）、それに小口さんが森林調査の手伝いで部外者2名の利用



43期 赤井ご夫妻

がありました。小口さん一行は3泊し同行の方からは、「周りもいいしこんな場所があって、皆で来てもいいし一人でもいいし、幸せだね。水が使えて、照明はあって、適度に便利でないところがとてもいいね」との言がありました。10月7日（月）～8日（火）に8期会で21名の利用があり、8期池原さんの報告を後半に記載します。



外壁の防腐剤塗り（鈴木会長）／食器類の整理と簀子拡張（笛木さん、榎本）



小口さん、安藤さん



通称「畠のはたけ」を手入れする56期 畠さん！



室内からLED投光器を設置しました

10月12日（土）～14日（月）の3連休には、きのこ狩り、紅葉狩り、小屋整備を実施し、5期諸角ご夫妻と高須さん、11期安藤さん、12期榎本、14期小口さん、29期松本さんが参加しました。目玉のきのこ狩りは、金曜日に小屋入りした、諸角ご夫妻と高須さんが土曜日の午前中までに終えており、今年はちょっと遅かったとのことで、後半組は収穫したきのこをご相伴ただけでした。小屋整備は、除雪車により曲げられた林道入口の苗名小屋の看板の解体、入口の林道の水流で掘れた溝を埋める砂利を小口さんが購入し、日曜午後到着したので、4人で溝埋め作業を実施しました。既存砂利もかなり使ってほぼ溝を埋めました。大雨が降ればまた流れ出てしまうでしょうが、取りあえず大きな段差は無くなりました。また、小屋40周年記念行事で植樹した「おおやまざくら」が2本まだ生き残っており、けなげに葉をつけておりました。諸角夫人によれば、根元はかなり太くなっているので、うまく育てれば成長出来るかも？

11月9日（土）～10日（日）小屋閉めを実施し、小口さん、18期向井さん・山口さん、松本さん、笹倉さん、現役の谷口さん（4年）、古矢さん（2年）、百合野さん（1年）、榎本の9名の参加でした。作業内容は、バッテリー更新に伴う諸工事、灯油等買出し備蓄、便槽汲み取り、雪囲い、井戸給水停止、造林小屋雪囲い、除雪用スコップ、スノーダンプ準備、小屋内外諸整理。現役は年末年始用の買出しをしていました。今年の汲取りは百合野さんに頑張ってもらいました。



苗名小屋での8期会（10月7日（月）～8日（火））の報告

小屋委員会及び小屋改良に係わられた皆様の小屋の改良により今回の8期会が大変気持ち良く又楽しく開催できました。御礼申し上げます。YWV8期のOBとOGはもちろん家族の方にも声をかけて21名の会となりました。OB・OGが16名とワンゲル出身ではない奥様が4名、だんな様が1名でした。当日は好天に恵まれましたので妙高高原駅での集合からイモリ池経由で小屋駐車場に行きました。イモリ池からの妙高山は見事でした。駐車場から小屋に続く細道は実に綺麗に草刈がしてあり感激です。足の悪い畠中も難なく歩いて

小屋入りしました。小屋到着後まず小屋委員会の皆様が如何に小屋を愛し維持し、改修してきたかを説明しました。参加者からは綺麗で整頓された小屋だとお褒めの言葉をいただきました。その後奥様方にも手伝って頂きBBQの準備、3時過ぎには火を入れて順次BBQへ移行しました。はじめは早坂夫妻が道の駅「能生」まで買い出しに行って購入した蟹でした。蟹を食べる間は静かな小屋周辺でした。その後いよいよBBQ、材料は前日小屋入りした幹事（佐木、池原）と協力者（綾部夫妻、松本、平沼）が新井の道の駅の鮮魚センターで仕入れた鮭や秋刀魚、野菜です。チャンチャン焼と秋刀魚焼に皆さん大喜び。7時にはお腹もいっぱいになりました。天の川まで見えた綺麗な星空の下、小出がこの日のために作成してくれた歌集によりファイアーを囲んで



バッテリーを交換する現役 谷口さん

山の歌を皆で歌いました。学生時代が懐かしく思い出される光景でした。8時に五八木荘からの迎えのバスが到着、女性の方々は五八木荘に下りました。今回は、女性は五八木荘に泊まりましたが、男性は1名を除き小屋泊まりで快適に過ごしました。8日は急ぎ帰る方を除き17名で笹ヶ峰・ヒコサの滝ハイキングコースを一周し、火打登山口にある明星荘できのこ蕎麦を食べ2時頃に解散しました。3K（暗い、汚い、臭い）の小屋から今は明るく、綺麗で、気持ちよい小屋に生まれ変わっています。誰かが言っていました「これなら孫を連れて家族で来れる」と。

8期 池原盛彦



■ 第25回シニアOBの集い報告

シニアの集い幹事 吉野大次郎（2期）

第25回シニアOBの集い 10月27日(日)～28日(月)

第25回シニアOBの集いは2013年10月27日(日)～28日(月)、群馬県草津温泉「ホテル高松」で開催されました。今年は参加者が少なく、1期から8期までのOB及びその家族、友人の45名が参加しました。

二日間とも好天に恵まれ、草津周辺、野反湖周辺は見事な紅葉に眼を奪われるようでした。

初日は、1A(群馬)子持山、1B(群馬)王城山、1C(群馬)白砂渓谷野反湖ドライブの3コースに分かれて歩きました。野反湖周辺では一時みぞれが降ってきて明日の山行が心配されました。

集いの宴は18時、この1年間の物故者への黙祷に続き、嘉納代表幹事の開会の辞で始まりました。3期吉村さんの乾杯の音頭、各期紹介、シニアの集い・月例会の参加回数賞の表彰、シニアの活動2013スライドショー(塚原月例委員長口演)、みはるかす合唱とエール、記念撮影と全ての行事が滞りなく行われました。

席上、シニア月例会委員長が来年1月より、2期塚原紳一郎氏から8期早坂宗氏に交代する旨発表がありました。塚原委員長、15年の長きにわたりまことにごくろうさまでした。

宴のあとは各期ごとの同期会、あるいは複数期合同での二次会で楽しく過ごしました。

2日目、2A(群馬)三壁山は予定通り開催されました。志賀草津道路が凍結で閉鎖となり、2B(長野)焼額山、2C(群馬)本白根山は一旦中止となりましたが、9時に開通したので2Bは決行、2Cは各車ごとの周辺散策に切り替えました。いずれも、絶好の大展望と紅葉を満喫しました。

今年の集いは、一部中止のコースはありましたが、概ね好天に恵まれ、爽やかな群馬の秋を楽しみました。

[シニアOB月例会参加回数賞受賞者]

30回参加賞 … 諸角壮式(5)、溝田隆之(8)、佐木誠夫(8)

50回参加賞 … 金田精彦(3)、高須靖子(5家族)、橋本明美(7)

50回参加特別賞 … 故南雲和江(7)

100回参加賞 … 嘉納秀明(1)、塚原伸一郎(2)

[シニアOBの集い参加回数賞受賞者]

10回参加賞 … 井上義雄(7)、高橋弓子(8)

20回参加賞 … 多田裕子(2)、原 隆子(4)、近藤博昭(6)



1A 子持山 (1296m)

参加人数···8名

リーダー 早坂 宗 (8期)

心配した台風も東海上に去り、予定通り車分乗で登山口の7号橋駐車場に集結。身支度を整え青空の下、8時40分に出発。階段道を登り太鼓橋を渡って天然記念物の屏風岩を見上げる。沢筋の登山道は下見の時より水量が多い。秋色濃い雑木林の中を喘ぎながら急登して尾根に出る。

獅子岩分岐にザックを置きピストン。約 10m の垂直の鉄梯子を攀じると次は腕力試しの鎖場。緊張しつつも順にクリアーし獅子岩に立つ。心なしか皆頬が紅潮している。眼前に子持山が大きく、赤城山や武尊山、小野子三山、榛名連峰などが一望でき思わず歓声が上がる。突端から見下ろすと紅葉の樹海に吸い込まれてしまいそうで恐い。展望を満喫した後、慎重に降

尾根に戻って雑木林の中を登り石祠の置かれている柳木ヶ峰で一服。岩稜を太いロープに縋り攀じ登ると間もなく山頂。11時25分に着いた頂上には既に10名以上の登山者が憩っていた。人気のある山なんだ。ここで昼食。晴れているのに霞がかかったようで遠望がきかない。巨岩の上の十二山神の石碑をバックに記念撮影。

柳木ヶ峰まで戻り、大ダルミに下る。これが転げるような急坂で、慎重に一步一步と云いながらも転倒皆無とはいかなかった。平坦な大ダルミに着いてホッとした。ここで協議、宿舎に早目に着くことを優先し8号橋に下ることにした。沢筋の下りは右岸、左岸を行ったり来たり、紅葉を楽しみながら下る。

7号橋駐車場には13時35分に帰着できた。

沢登りあり、渡渉あり、岩登りあり、急登・急下降ありと魅力のぎっしり詰まった楽しい山だった！



1B 王城山 (1123m)

参加人数···14名

リーダー 吉野大次郎 (2期)

初日のBコースは群馬百名山の王城山です。この山は2000年前、日本武尊が東征の帰路に立ち寄ったということで、王城山と名付けられました。

山麓には王城山神社があり、奥の山頂には奥宮があります。

集合は今年の3月にオープンした、道の駅ハツ場（やんば）ふるさと館です。日曜日ですが途中渋滞もなく、各車予定より早目に到着しました。

10時15分出発、五合目までは舗装された林道です。おしゃべりをしながらしばらく登ると、紅葉がチラホラと見えてきました。日差しが暖かく、頬をよぎる風が気持ちいい。

五合目からはやっと山道です。樹林帶の中を、

汗をかきながらジグザグにひと登りすると八合目です。そこから、左側の巻き道を奥宮に向かいました。

ところが、昼食に予定していた奥宮山頂は、20名ほどの団体に占領されており、座る場所もありません。写真だけ撮ってすぐ手前の王城山に向かいました。幸い王城山（1123m）の山頂を独占することができて、ここでゆっくり昼食をとりました。浅間山他高い山は雲に隠れて山頂は見えませんでしたが、目の前の浅間隠山はよく見えました。紅葉もかなりきれいでした。

下りはもっと楽で、全員ペちゃくちゃしゃべりながら、ぶらぶらと歩き 14 時過ぎには道の駅に帰着しました。早すぎるので道の駅でゆっくり休み、14 時 30 分に草津温泉に向かいました。



1C 野反湖 白砂渓谷 ドライブコース

参加人数・・・9名

リーダー 小林桂子 (7期)

大型の台風が心配されたが、当日は好天に恵まれーとは言っても雲が多く時々ポツポツ雨も有りましたがー無事終了いたしました。参加者は9名です。予定どおり11時半全員長野原草津口駅に集合、車2台に分乗し、先ずは六合（くに）村赤岩地区の重要伝統建造物群保存地区のふれあいの家へ。昭和初期の養蚕の様子がコンパクトにまとめられており、子供の頃疎開したことを思い出す人も。今は懐かしい水車小屋の前で最初の記念撮影。その後道の駅「六合」へ。そこで昼食、律儀な弁当持参者一名以外は 本日のお勧めの天ぷらそばを頂きました。

温かいお蕎麦で体を温め 野反湖迄の白砂渓谷沿いのドライブ開始。対岸の切り立った岩肌に紅葉が何とも美しく、写真撮影の為数回停車、下を流れる渓谷と紅葉と岩壁のコントラストを堪能。更に白砂川の支流、八石沢川の「世立八滝」の一つ大仙の滝へ。ここで初めて歩くこと5分（往復10分なり）、雨の後で水量豊富、紅葉の岩壁から流れ落ちる滝は誠に見事、その絶景を堪能したのち、再び車上の人となり野反湖を目指したる標高を上げて行くドライブ。

素晴らしい紅葉もやがて枯れ葉となり、野反湖は既に初冬の佇まい。車を降りると強風と寒さで吹き飛ばされそうになり、ユックリ景色を楽しむ余裕など無くレストランに直行。その窓越しに、白く雪化粧を纏いつつある、周辺の山々の景色をコーヒーを飲みながら楽しみました。14時40分出発し今宵の宿草津温泉へ。宿舎到着15:15。歩くことなく存分に紅葉を楽しんだ一日でした。



2A 三壁山(1974m)・エビ山(1744m)

参加人数・・・16名

リーダー 腰塚典明 (3期)

前夜の「野反湖周辺の山は雪」との情報で心配したが、朝8時すぎに4台の車に分乗して宿舎を出発。途中、白砂渓谷の素晴らしい紅葉（黄葉）に感嘆しながら、国道405号線を野反峠へ。参加者は、急遽参加した1名を加えて総勢16名。

野反峠から見た三壁山周辺には雪はなく、予定通り、野反湖バス停横の駐車場に車を置く。下山後の車回収用に1台を野反峠に配車し、9時半ごろ、出発。

ダム堰堤をとおり、バンガロー村、三壁山登山口の標識をすぎ登山道に入ると、笹の中の急な登りとなる。紅葉は終わっている。道は雪融けで多少湿っている。水場である宮次郎清水を過ぎるあたりから、前日の雪を踏みながら登る。視界が開けるごとに、眼下の湖や、雪に輝く白砂山や、日光白根、遠く富士山、かすかに噴煙をあげる浅間などの抜群の眺望を楽しむ。

11時すぎ、眺望のない三壁山（1974m）へ。三壁山から高沢山（1903m）へは、なだらかな尾根歩き。高沢山を過ぎると下り、真近に草津白根山を見ながら、エビ（恵比）山へ（12:40）。広い山頂でエビ（海老）天入りの豪華弁当で昼食。360度の大展望を楽しむ。頂上で、中止になった他コースの分を含めて3本の小旗を掲げて記念撮影し、出発（13:25）。笹原の中の急坂を、シラカバ、湖面、遠くの山並みなどを楽しみながら下り、少しの登りののち、弁天様が安置された弁天山へ（14:35）。弁天山から野反峠の距離は短く、15時に全員



元気で野反峠に着く。「使用後」を撮影し、解散。4台の車に分乗して、帰路についた。快晴、風もなく、また寒くもなく、素晴らしい眺望に恵まれた楽しい山行であった。

2B 焼額山 (やけびたいやま) (2009m)

参加人数・・・2名

リーダー 佐木誠夫 (8期)

焼額山は志賀高原の最北部の奥志賀の山です。草津から志賀高原へ行く志賀草津道路は積雪で通行止めでしたが、草津白根山まで行こうと、と吉田さん(1期)とホテルを8時に出発したところ、9時から通行できたので、二人で焼額山に登りました。

下山する奥志賀高原ホテルに車1台を置き、1台の車で登山口のプリンス西館に戻りました。登山口で熊笛を吹いて熊に山に入ることを知らせ、当初の計画通り11時から登り始めました。白樺の林の中の山道を30分程登ると、山頂に続く切り開かれた見通しの良いスキーゲレンデに出ました。登山中に振り返ると薄く雪の付いた岩菅山が大きく聳えており、西側が見通せる斜面にでると白くなっている乗鞍から後立山までの北アルプスが遠くに望まれました。山頂ゴンドラ駅からコメツガの林の木道を少し進むと山頂の小さな稚児池に到着、12時15分でした。



山頂部は数cmの積雪で覆われ、動物の足跡がいくつも雪に残り、着雪した木々が空の青さに映えていました。稚児池の周りは西に湿原が広がっており、妙高山と黒姫山の後に北アルプスが見えました。山頂から少し下り奥志賀高原スキー場に出ると鳥甲山、苗場山が現れました。

昼食後、スキーコース脇の車道を下り、14時に奥志賀高原ホテルに着きました。快晴でしかも無風、新雪と紅葉を楽しんだ3時間の登山でしたが、前日に計画を中止したため参加者が少なくなったことは、とても残念です。

2C 本白根山 (2171m)

道路閉鎖により中止

参加予定者18名と今回最多数を誇る本白根山でしたが、朝8時、凍結による道路閉鎖の報を聞いて、中止と決定しました。

天気は良かったので、3台の車が近辺散策をしてから帰路につきました。

吉村(3)車 同乗3名。白根火山まで行き芳ヶ平遊歩道、白根山湯釜散策。360度の絶景を堪能しました。

谷上(4)車 吉村車に合流、共に散策を楽しみました。

池原(8)車 同乗2名。野反湖まで行き、快晴下の景色を眺めて帰路につきました。



今年のシニアの集いも無事終了しました。また来年を楽しみに！

■ 現役部員の活動報告

主将 古矢紘基（56期）

2013年度主将の古矢と申します。今回は現役部員の活動として、1年間のメインである夏合宿に関して紹介をしていきたいと思います。今年の夏合宿は2回行い、1回目が白馬岳、2回目が槍ヶ岳という形です。どちらも特に大きな問題はなく、順調に登山を行うことができました。

白馬岳へはムーンライト信州の夜行電車で向かいました。夜行電車の中は明るく、メンバーの中でアイマスクを持っている人はいなかったので、みんなあまり眠ることができなかつたようでした。初日は猿倉から白馬鑓温泉への行程です。白馬岳へのアプローチとして大雪渓を通り、鑓温泉からとしたのは、大雪渓を通るルートだと2泊3日のコースとなってしまい、夏合宿でそれでは味気ないという意見と2100mの雲上の温泉というフレーズに惹かれたからです。

白馬登山の初日の天気は、雨が降ったり止んだりガスが出てきたりと、ぐずついた空模様でした。しかしガスに覆われた杓子岳と鑓ヶ岳は、大小多くの雪渓を従えて幽玄な雰囲気を醸し出していました。鑓温泉までの道では、ほとんど消えかけているものも含めて3度ほど雪渓を通過し、最後少し長めの雪渓を登り、鑓温泉に到着しました。鑓温泉には昼前に着いたので、午後はずっと温泉に浸かっていました。大量の湯の花が浮いた温泉は非常に特徴的で、また温泉に仕切りがなく、雲上の温泉という謳い文句通り、雲が広がる絶景を味わうことができました。

2日目は鑓温泉から鑓ヶ岳、杓子岳を通り、白馬岳頂上宿舎まで行く行程です。鑓温泉から出た後は、雪渓と並行するように登って行き、しばらくすると展望が開けて、大出原に差し掛かります。大出原では様々な高山植物が咲き誇っていました。思えば6月に行った八ヶ岳でも高山植物が美しく咲いており、今年は高山植物に恵まれた山行であったと思います。尾根に上がってみると、白馬の特徴というのを実際に目で楽しむことができました。氷河期の氷河の浸食による急峻な東側となだらかな西側という非対称な山稜、東西の残雪の程度の違い。このようなことは知識として事前に知っていましたが、実際に見てみるとやはり感慨深いものがあります。この違いを最もよく感じられたのは杓子岳でした。というのも杓子岳の東側は断崖絶壁という状態であり、左右の違いはものすごいものでした。断崖絶壁の東壁には欠けかけている岩がむき出しとなっていました。杓子沢で落石注意という警告を思い出し、なるほどと感じました。この日の行動時間は5時間ほどであり、昨日と同じように午前中に着いたので、テントの中で午後はトランプをして過ごしていました。

3日目は頂上宿舎から白馬岳、雪倉岳、朝日岳を通り、朝日小屋へと向かうルートです。この日は前日までのぐずついた天気とは違い、見事な快晴となりました。頂上宿舎から白馬岳へは30分ほどであり、白馬岳でご来光を見ようと、日の出の1時間ほど前に出発しました。自分たちが着いたころには山頂はすでに多く人で賑わっていました。そして日の出は雲海の中から出てくる実に見事なものでした。山頂で一時間ほど過ごした後、雪倉岳に向かいました。雪倉岳までの登山道は、歩いていてとても気持ちのいいコースでした。朝日に照らされた尾根筋、コマクサ、三国境での二重山稜、どれも自分たちの目を楽しませてくれるものでした。白馬岳を表現するのに、よく雪と花という言葉が使われますが、多様な高山植物や所々に残っている雪田は白馬岳で深く印象に残るものであり、雪と花というキーワードは白馬岳を表すのにもっともであると感じました。雪倉岳を過ぎ、燕岩の辺りになると植生も樹林帯に変わって行きました。朝日岳への急登では、樹林帯で景色が楽しめず、また今までの疲れがあり、皆無言で登っていました。

最終日4日目は朝日小屋から朝日岳へと登り、蓮華温泉に至るというものです。いつも最終日はそうなのですが、温泉を目指して皆黙々と下っていました。だらだらと長い下りと最後の方にある登りは精神的にきつい



白馬鑓温泉（テント場から温泉が丸見えです）



白馬岳山頂

ものがありました。

また2回目の夏合宿である槍ヶ岳には、早朝、高速バスで向かいました。しかしちょうどお盆時期と重なっていたことがあってか、道路が渋滞し、1時間ほど遅れて上高地に到着という形になってしまいました。初日は槍沢キャンプ場で泊ろうと思いましたが、自分たちが着いた時にはキャンプ場はいっぱいであり、仕方なく河原にテントを立てることになりました。河原でもいい場所は埋まっており、キャンプ場（水場とトイレ）から遠くに立てなければいけませんでした。

2日目は槍沢から天狗原分岐まで行き、そして天狗池を通り、南岳へ。そして中岳、大喰岳を経て槍ヶ岳山荘のテント場にテントを立てて、槍ヶ岳に行くというルートです。この日を含めてこの槍ヶ岳登山では総じて天気が良く、この日は槍ヶ岳や穂高岳、常念岳に笠ヶ岳と360度の展望が広がっていました。天気のいい日であったので、天狗池で逆さ槍が見えるのではないかという期待をしていたのですが、肝心の天狗池がまだ凍って雪が残っており、逆さ槍を見ることは叶いませんでした。氷雪に泣かされた天狗池でしたが、氷雪によって助けられた機会もありました。中岳での雪解け水です。自分たちの通るルートでは水は槍沢キャンプ場でしか無料で補給ができず、10200円で購入しなければなりませんでした。例年この時期は枯れている可能性があるということだったのですが、この水補給によって1,500円ほど浮かすことができました。



中岳の水場で昼食

南岳からの稜線上を、景色を楽しみながら進み、槍ヶ岳山荘には12:00頃到着しました。しかしながらその時には槍ヶ岳山荘のテント場がすべて埋まっている状態となっており、しかたなく今日は殺生ヒュッテのテント場に泊まることに決めました。殺生ヒュッテに行く前に槍ヶ岳を往復しました。ちょうど8月14日というお盆時期であり、往復路は多くの人で賑わっていました。

3日目は殺生ヒュッテから槍ヶ岳を往復し、東鎌尾根を進み、西岳、喜作新道を進み、大天荘で泊るルートです。槍ヶ岳では本来はご来光を拝みたかったのですが、昨日の混み具合を考えて、日の出前に登って下り、他の人達よりも一足早く出発することにしました。結果的にこれによって狭い東鎌尾根で登山者とすれ違うことなく、スムーズに進むことができたのだと思います。早朝の槍ヶ岳は最高でした。右の写真は4:42に槍ヶ岳から鷲羽岳をとったものなのですが、早朝の静けさに雲が織り成す荘厳な雰囲気は、1年前自分が登山で初めて感動した燧ヶ岳の景色に似通ったものがありました。槍ヶ岳から西岳へと進み、大天井ヒュッテまで行く道では、振り返るたびに槍ヶ岳が良く見えました。齋藤先輩は今回のルートに関して、逆回りで進むことを勧めていましたが、確かに逆回りの場合、進む方向に槍ヶ岳が良く見え、齋藤先輩が逆回りを勧めていた理由がようやく理解できました。さて昼食は大天井ヒュッテで食べたのですが昼食を食べている間、急に寒くなり雲行きが怪しくなったので早めに昼食を切り上げて大天荘に向かったところ、自分たちが大天荘に着くやいなや雷を伴った雨が降ってきました。それも含めて早めに槍ヶ岳から出発したのは結果的に良い判断だったと思います。



早朝の槍ヶ岳からの景色

4日目は大天荘から燕山荘へ向かい、燕岳を往復して中房温泉に下るというものです。燕岳は今回の夏合宿の中では一風変わった山でした。谷口先輩が、甲斐駒ヶ岳みたいだと言っていましたが、まさにその通りで、燕岳の砂の景観はまさに甲斐駒ヶ岳のようでした。燕岳を往復した後、合戦尾根を通り、中房温泉へと下りましたが、合戦尾根は北アルプス三大急登と言われているようにひたすら下りで、さらに樹林帯により展望が良くなかったので、これを登りにしたら精神的に参るなと思いながら下って行きました。



2013年夏合宿 槍ヶ岳山頂

最後に夏休み以降の現役の活動について簡単に説明します。夏休み直後の活動として、体育の日の3連休に奥穂高岳へ、聖マリア医科大学の大井とともにやってきました。また11月23日または24日には今年最後の登山として、三ツ峠山に行ってきます。年末年始、センター休みには小屋でスキー合宿をし、春休み終わりには九州の方へ春合宿に行きたいと考えています。



富士山とリニア新幹線

九鬼山 登山

2013. 11

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチ等どしどしお寄せ下さい。
宛先 石垣秀敏 (20期) gakky@s2.dion.ne.jp
成島和仁 (22期) suikyou3@m3.spacelan.ne.jp
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会会報第 55 号

発 行: 横浜国立大学ワンドーフォーゲル部 OB 会

発 行 日: 2013 年 12 月 23 日

発行責任者: 鈴木弥栄男(9)

編集責任者: 編集委員長 石垣秀敏(20)

編 集: 編集委員 成島和仁(22)

印 刷 所: 株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1